

ふるさと便り

―「上越タイムス」の記事より―

居多神社 新社殿完成（七月）

新社殿が完成した五智の居多神社で落成記念の竣工祭が行われた。神社は大国主命と奴奈川姫、建御名命を祭神とし、貞観三年（八六一）に朝廷から従四位下を賜るなど長い歴史と格式を持つ神社です。明治三十五年の火災で社殿が焼失。仮社殿で約百年が経過し、老朽化が進んだため、寄付を募って改築の準備を進めていた。新社殿は大国主命を祭る出雲大社と同じ形式で完成しました。



金メダルに満面の笑み（八月）

五輪金メダルの北島康介選手の父といとこで中ノ俣在住の北島ツギさんは大きな声援を送っていた。中ノ俣は北島選手の祖父の出身地。表彰台で金メダルを手にした姿が映し出されると身を乗り出してテレビを見入り「世界だすけね！この前より感動が大きい」と大喜びだった。



運の花コンサート「水のいのち」を合唱（八月）

昭和二十三年から十四年間、高田農業高校で教員を務めた詩人高野喜久雄さんの詩や歌を合唱する「運の花コンサート」が約千二百人の参加を得て開催された。高野さんは佐渡新穂村出身で、教員の傍ら超現実主義の詩作に傾倒。その後人間の存在意義を見つめる詩作も発表した。後にイタリアで詩作が評価され、数々の栄誉を受けた。



勇壮な戦国絵巻の謙信公祭（八月）

再びGackt謙信の「いざ出陣じゃ」の声で、勇壮な戦国絵巻が繰り広げられた。昨年を上回る延べ二十一万三千人が参加したと発表された。



直江津港フェスティバル2008

七年ぶりに来航した大型帆船「日本丸」の一般公開をはじめ多彩な催しが、港町・直江津を盛り上げた。



青田川を親子で探検（九月）

大手町小学校の四年生、青田川探検する。親子活動を行った。西城町一、三丁目に掛かる新幸福橋から、中通りと上中田にかかる下まるはん橋の間で、各班に分かれ網や仕掛けて生きものを捕ったり、川に出来る鳥を観測するなどした。親子で川の良さを学んだ。



「天人」のロケ開始（九月）

柿崎区の柿崎中央海水浴場でロケが始まった。兼続役・妻木木さん、謙信役・阿部寛さん、お船役・常盤貴子さんが登場した。



糸魚川のシンボル イトヨ（九月）

糸魚川の名称はトゲウオ科のイトヨから名付けられ、市章にも利用されているがこの地区では絶滅した。今から五十年前は糸魚川の川や周辺の低湿地に多く生息していた。毎年春になると河口から群れをなして遡上していた。イトヨは淡水型と産卵期以外は海で過ごす降海型であり、糸魚川地区のイトヨは降海型であった。県内では信濃川、阿賀野川の一部に生息しているが、減少傾向から天然記念

物に指定されている。

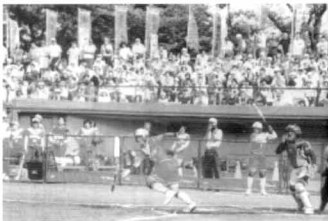
直峰城のパンフ 安塚区（九月）

安塚区では直江兼続ゆかりの直峰城の史跡や周辺マップを収録したパンフレットを作成した。それによると直峰城は築城時期は不明だが、南北朝時代に南朝方の武将風間信濃守信昭公の居城だった。中世の典型的な山城で、謙信亡き後、養子の景勝の時代には御館の乱の功績で、天人の主人公直江兼続の実父樋口惣右衛門兼豊が天正十二年（一五八四）に直峰城の城主とした。徳川時代に廃城となったが大規模な空壕、曲輪跡などが残っている。



全日本総合女子ソフトボール選手権大会（九月）

上越、糸魚川両市で開かれた全日本総合女子ソフトボール選手権大会で、北京オリンピック金メダルの立役者上野由岐子選手が登場し、世界を制したヒッチングを披露し、スタントをうならせた。



宇喜世の本館、東門、北門が国登録有形文化財に（九月）

仲町の料亭・宇喜世の本館、東門と北門が国登録有形文化財に登録されることになった。

本館は明治二十年頃の設立時に建設されたと言われている。正門に当たる北門はかやぶきの腕木門。東門は銅板ぶき切り妻屋根。



上越市出身のプロ棋士佐藤昌晴九段（十月）

佐藤昌晴九段による指導囲碁会が開催された。佐藤プロは、棋道賞優秀棋士賞を始め数々の実績を上げ、昨年は通算七百勝を達成している。



お馬だしで骨董蚤の市が開かれた（十月）

本町二、三丁目のお馬だしで、骨董の出店などが並び、懐かしい品ぞろえに多くの人が足を止めていた。陶器をはじめ古民具、着物、ひと昔前の家電品がかざられ、お蕎麦や地場の野菜の出店もあった。



イノシシ現れる（十月）

島田で、通行人が直江津方向に走るイノシシを発見。国道十八号と並行するように入り込み、上富川の中江用水の水路に飛び込んだ。警察官と環境企画課職員が行動を監視していた。



金谷山を魅力ある里山に（十月）

「金谷山さくら千本の会」は金谷山公園でオオヤマ桜や緑色の花を付けるキョイコウなど十三種類の桜を植樹した。これまでに植えた桜は三百本を超える。四月から十一月まで、毎月一回の手入れも欠かさないで続いている。十九年には「第十二回環境境賞」に選ばれた。



田端まつり（十一月）

国登録の有形文化財に決まった仲町の料亭・宇喜世で「田端まつり」宇喜世今昔物語」が開催された。大広間では高田芸妓が舞踏を披露、昭和初期からに写真を集めた「宇喜世今昔ものがたり」が上映され、参加の約百人を乗せました。仲町は、古くは「田端」の地名で魚の市場があった。



北国街道あらい時代祭 妙高市新井（十一月）

新井別院報恩講「おたや」でにぎわう中町、下町、朝日通りで時代行列を行った。鯉ヶ尾城で非業の最期を遂げた上杉影虎を先頭に、謙信、妻・華溪院らにふんじた市民数百人が勇壮に練り歩いた。



五智国分寺「山門」の修復(十一月)

五智国分寺の「山門」の修復が三年前から行われてきた。この度修復塗装が施され「安國山」の文字が美しくよみがえった「山額」が元の位置に納められた。



寺町サミットin上越(十一月)

「寺院を活かした町づくり」をテーマにしたサミットが高田別院本堂で開催された。飯山、金沢、小松、岐阜、米沢と上越の六都市が集まり、文化財の保護、保存、活用などの町作りが話し合われた。



晩秋の風物詩・桑取川のサケ漁(十一月)

桑取川の河口では、投網のサケ漁が連日行われている。昨年は一万匹の豊漁だった。



水道水をはくくむ森づくり(十一月)

後谷の林道南葉高原線治にある水源保護地域内で直林活動を実施した。地元黒田小学校四年生が水源保護審議会委員、くびき野森林組合員等と一緒に上越の水道水をはくくむ森づくりに参加した。市では十二カ所を水源保護地域に指定、毎秋くわどり市民の森、中ノ俣地区、名立区などの指定地区で植林を続けている。



南葉山雪化粧(十一月)

秀峰・南葉山は二十日すっぽりと雪化粧した。麓の紅葉と相まってこの季節ならではの美しい姿を見せている。



正善寺工房の「たくあん漬け」(十二月)

もうすぐお正月です。下正善寺の正善寺工房では冬の風物詩「たくあん漬け」が始まった。参加者は持参した桶に干し大根を次々に敷き詰めていく。買ったものより美味しいと評判です。

